

2022 年度事業報告書

I 事業の実施概要

- (1) 助成事業…………… 2
- (2) 表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～ … 3
- (3) 制作者フォーラムの開催 …… 5
- (4) 定期刊行物の刊行…………… 6
- (5) ホームページ等による広報 …… 6
- (6) 資産運用検討委員会の開催…………… 7

II 処務の概要

- (1) 役員、評議員等に関する事項…………… 8
- (2) 理事会および評議員会に関する事項 …… 10

III 付属明細書(資料 1～4)

2022 年度事業報告書

I 事業の実施概要

高速大容量の情報ネットワークの普及が進み、AI 等による利便性の高いサービスの利用が容易になりつつある高度情報社会において、メディア環境をとりまく変化のスピードはより一層加速し、視聴者行動も変化を続けていくことが予想される。

放送文化基金は、このようにメディアをとりまく世界が急激に流動化していく時代にあつて、放送を中心としたメディア文化の発展と向上により一層貢献すべく、計画した事業の着実に効果的な実施に努めた。

助成事業においては、技術開発部門の助成対象に XR 技術など拡張現実、仮想現実、複合現実に関連した新しい放送サービスの研究・開発を追加し、時代に即したより広範囲にわたる研究への助成に取り組むとともに、学術誌に広告を掲載し、周知活動の強化に取り組んだ。なお、技術開発の助成金の一部に解散した東京ケーブルビジョンから受入れた寄付金を充当している。

表彰事業においては、放送文化基金賞贈呈式のイベントとしての質的充実を図りつつ、視聴者に感銘を与え、放送文化の発展と向上に寄与した優れた番組や個人・グループの表彰に努めた。

制作者支援活動事業においては、「北海道・東北地区」、「北陸・長野、新潟地区」、「愛知・岐阜・三重地区」、「中国・四国地区」、「九州・沖縄地区」の全国 5 地区での開催が 4 年ぶりに実現し、現地の実行委員会との共催による制作者フォーラムを通じて、系列や地域の枠を越えた交流の場を若手制作者等に提供した。また、全国制作者フォーラムを開催し、各地区のミニ番組コンテスト入賞作品の上映と意見交換、ベテラン制作者を交えたトークセッションを実施した。

また、2024年2月1日に当基金は設立50周年を迎えることから、記念事業を実施するための準備を開始するとともに、その原資を追加して積み立てることとした。

(1)助成事業

ア 2022年度助成

2022年度助成要項に基づき、技術開発、人文社会・文化の2分野を対象に公募を行った結果、67件の申請があり、助成審査委員会の審査と理事会の審議を経て、最終的に27件、4,281万円の助成を決定した。

申請および採択結果は、次の通りである。

(単位 万円)

区 分	申 請		採 択	
	件 数	金 額	件 数	金 額
技 術 開 発	14	4,970	6	1,743
人 文 社 会 ・ 文 化	53	9,937	21	2,538
合 計	67	14,907	27	4,281

(助成対象一覧 資料1)

なお、金融緩和政策の長期化により資産運用収入が減少する状況下で、助成事業を安定的に継続していくために2014年度から5年間にわたり積み立てた助成費用準備資金から2,000万円、また解散した財団法人東京ケーブルビジョンより2017年に受け入れた寄付金から1,000万円をそれぞれ取崩して、助成金の一部に充当している。

助成金贈呈式は2023年3月3日に開催し、目録贈呈式と懇親会を実施した。また、目録贈呈式に先立ち、技術開発部門では豊橋技術科学大学助教の日根恭子氏による「人間中心社会のための放送技術開発」、人文社会・文化部門ではGCN(ジェンダーとコミュニケーションネットワーク)・東海学

園大学人文学部教授の北出真紀恵氏による「番組製作会社から見る放送産業の変容に関する研究」をテーマとして研究報告会を開催した。

イ 2019 年度および 2020 年度助成事業の実施報告

2022 年 10 月に開催したそれぞれの審査委員会で、2019 年度に助成した技術開発 10 件、人文社会・文化 23 件および 2020 年度に助成した技術開発 6 件、人文社会・文化 23 件の実施報告(成果報告・2022 年 6 月末締切、2019 年度助成については新型コロナウイルス感染症の影響により研究期間を 1 年延長)について 1 件ずつ内容の評価を行った。

(2)表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～

ア 第 48 回放送文化基金賞

2021 年度中に放送された優れた放送番組(番組部門)と、主にその期間に顕著な業績をあげた個人・グループ(個人・グループ部門)を対象に、2022 年 4 月～5 月に開かれた各部門、各分野の専門委員会、審査委員会を経たのち、理事会で計 29 件を決定した。

部 門	領 域	応募・推薦数	表彰数	備 考
番 組 部 門	テレビドキュメンタリー	81	5	最優秀賞 1、優秀賞 1、奨励賞 3
	テレビドラマ	53	4	最優秀賞 1、優秀賞 1、奨励賞 2
	テレビエンターテインメント	64	4	最優秀賞 1、優秀賞 1、奨励賞 2
	ラジオ	26	3	最優秀賞 1、優秀賞 1、奨励賞 1
	個別分野	—	6	番組部門受賞作品から選定
個人・グループ部門	放送文化	9	4	—
	放送技術	8	3	—
合 計		241	29	

応募・推薦および表彰結果は次のとおりである。

(受賞一覧 資料 2)

番組部門の賞金は最優秀賞 100 万円、優秀賞 50 万円、各奨励賞 30 万円、個別分野賞 20 万円。また、個人・グループ部門の賞金は 30 万円。

最優秀賞を受賞した番組は、テレビドキュメンタリー番組が『目撃！につぼん 妹が生まれなかったかもしれない世界～出生前診断と向き合っ～』(NHK名古屋放送局)、テレビドラマ番組が『水曜ドラマ ハコヅメ～たたかう！交番女子～』(日本テレビ放送網)、テレビエンターテインメント番組が『水曜日のダウンタウン おぼん・こぼんTHE FINAL』(TBSテレビ)、ラジオ番組が『FMシアター 手を振る仕事』(NHK)である。

個人・グループ部門では、放送文化が 4 件、放送技術が 3 件受賞した。放送文化基金賞の贈呈式は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一昨年・昨年に引続き規模を縮小したうえで 7 月 6 日にオークラ東京で開催した。

イ 他の賞への参加

ABU(アジア太平洋放送連合)番組コンクール、第 49 回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール、「創作ドラマ大賞」に参加した。

ABU番組コンクールの授賞式は、2022 年 11 月 29 日にインドのニューデリーで行われ、スポンサーの一員として賞金 US\$4,000 を贈呈した。

「日本賞」の授賞式は、2022 年 11 月 4 日にオンラインで行われ、「企画部門」で最優秀企画に選ばれた『ティーントーク』(エジプト・アラブ共和国)に対して放送文化基金賞(賞金 US\$10,000)を贈呈した。なお、昨年の日本賞「企画部門」で放送文化基金賞を受賞した『レインボーフラワー 子供たちが描く未来の学校』(エクアドル共和国)については、「日本賞」開催期間中に完成した番組が上映される予定であったが、同国内の反政府デモの影響により番組の完成が遅れているため、制作期間の延長を了承することとした。

日本放送作家協会とNHKが主催する「創作ドラマ大賞」について、第 47 回「創作テレビドラマ大賞」の贈賞式は 2022 年 11 月 2 日に行われ、大賞の

『ケの日のケケケ』(森野 マッシュ 氏)に賞金 50 万円を贈呈した。また、第 51 回「創作ラジオドラマ大賞」では大賞の『逆さ首』(菊谷 淳子 氏)に賞金 50 万円を贈呈した。

(表彰結果 資料 3)

(3) 制作者フォーラムの開催

NHK、民放、制作プロダクション等、組織の枠を越えた制作者同士の自由な意見交換や交流の場を設けることを目的に開催している。

2022 年度は、「北海道・東北地区」、「北陸・長野、新潟地区」、「愛知・岐阜・三重地区」、「中国・四国地区」、「九州・沖縄地区」すべての地区での開催が再開され、現地実行委員会との共催によるミニ番組コンテストと審査員によるトークセッションが行われた。

さらに、2023 年 2 月 18 日(土)に東京で全国制作者フォーラム 2023 を開催し、上記5地区のミニ番組コンテストで入賞した作品の上映とゲストのベテラン制作者との意見交換、トークセッション『テレビ新時代～変わっていくこと、変わらないこと～』を実施した。

○北日本制作者フォーラム in あきた (北海道・東北地区)

<北海道・東北の全民放と NHK 計 34 局>

日 時 2023 年 1 月 26 日 (木)

会 場 にぎわい交流館 AU/秋田市

参加者 寒波到来のため秋田地区以外はリモートでの参加

○北信越制作者フォーラム in にいがた (北陸・長野、新潟地区)

<北陸・長野、新潟の全民放と NHK 計 22 局>

日 時 2022 年 11 月 26 日 (土)

会 場 新潟日報メディアシップ 日報ホール/新潟市

参加者 約 70 人

○愛知・岐阜・三重制作者フォーラム in なごや（愛知・岐阜・三重地区）

<愛知・岐阜・三重の全民放とNHK 計10局>

日時 2022年11月16日（水）

会場 東別院ホール／名古屋市

参加者 約95人

○中四国制作者フォーラム in おかやま（中国・四国地区）

<中国・四国の全民放とNHK 計32局>

日時 2022年12月2日（金）

会場 RSK山陽放送・能楽堂ホール／岡山市

参加者 約50人

○九州放送映像祭&制作者フォーラム（九州・沖縄地区）

<九州・沖縄の全民放とNHK 計32局>

日時 2022年11月26日（土）

会場 NHK福岡放送局 よかビジョンホール／福岡市

参加者 約60人

（4）定期刊行物の刊行

2022年9月には放送文化基金賞の受賞者インタビューなどを掲載した放送文化基金報(HBF)No.94を刊行した。

（5）ホームページ等による広報

ホームページでは事業活動全般について定期更新以外にも随時更新を行い、情報公開と基金のPRに努めた。

<日本語版内容>

助成決定および成果報告／助成対象のデータベース／放送文化基金賞のデータベース／放送文化基金賞の受賞一覧／助成・放送文化基金賞WEB申込等システム／各地区制作者フォーラムの開催予告と結果報告／事業計画・収支予算／事業報告／財務諸表／役員・評議員・審査委員名簿／基金の活動を親しみやすい形で紹介する読み物(読む・楽しむ) 等

<英語版内容>

助成の募集案内、助成対象一覧、放送文化基金賞の受賞一覧、日本賞・ABU賞への参加について 等

(6)資産運用検討委員会の開催

ア 目的等

資産運用の専門性をより向上させるための諮問的機関として設置しており、2022年9月26日と2022年11月24日に開催した。

イ 主なテーマ

- ・国内外の経済政策や金利・為替等の見通し
- ・債券市場や保有債券の分析、資産運用方針の検討等

ウ 構成委員

服部 海 (野村証券株) ポートフォリオ・コンサルティング部 ヴァイス・プレジデント)

松原 克美 (放送文化基金 会計顧問・公認会計士)

清水 孝雄 (放送文化基金 監事・TBS社友)

(幹事)

西村 睦生 (放送文化基金 専務理事)

Ⅱ 処務の概要

(1) 役員、評議員等に関する事項

ア 役員を選任

(i) 第32回評議員会(2022年12月8日)において、吉野 真史 氏が新たに監事に就任した。

吉野 真史 氏 (日本放送協会 経営企画局長)
(任期は2022年12月8日から2023年6月の定時評議員会)

イ 役員を退任

(i) 三上 八洲志 監事は2022年7月1日付で退任した。

(ii) 箕浦 康子 理事は2022年10月10日付で退任した。

ウ 評議員を選任

(i) 第31回評議員会(2022年6月21日)において、林 理恵 氏が新たに評議員に就任した。

林 理恵 氏 (日本放送協会 専務理事)
(任期は2022年6月21日から2023年6月の定時評議員会)

(ii) 第32回評議員会(2022年12月8日)において、大草 透 氏が新たに評議員に就任した。

大草 透 氏 (日本放送協会 経営委員会委員・監査委員)
(任期は2022年12月8日から2023年6月の定時評議員会)

エ 評議員を退任

(i) 吉田 喜重 評議員は2022年12月8日付で退任した。

(ii) 前田 晃伸 評議員は2023年1月24日付で退任した。

オ 審査委員の委嘱

(ア)第 69 回理事会(2023 年 2 月 9 日)において、審査委員会委員長の
指名を行なった。

・放送文化基金賞 審査委員会委員長

桐野 夏生 氏 (作家)

(任期 2023 年 2 月 9 日から 2024 年 3 月 31 日まで)

2023 年 3 月 31 日現在の役員、評議員、審査委員は資料のとおりである。

(役員、評議員、審査委員一覧 資料 4)

(2)理事会および評議員会に関する事項

ア 理事会

開催年月日	主 な 議 案
2022.6.6 (第 65 回)	<ul style="list-style-type: none">・ 評議員候補者の推薦について・ 2021 年度事業報告および決算について・ 第 48 回「放送文化基金賞」表彰対象について・ 2022 年度「助成要項」について・ 評議員の退任について・ 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況(2022.1～3 月)
2022.7.15 (第 66 回)	<ul style="list-style-type: none">・ 審査委員会委員の委嘱について・ 2022 年度助成要項一部変更について・ 助成(技術開発)審査委員会専門委員の委嘱について・ 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況(2022.4～6 月)
2022.10.11 (第 67 回)	<ul style="list-style-type: none">・ 第32回評議員会の開催について・ 第49回放送文化基金賞「表彰実施細則」について・ 役員の退任について・ 2022 年度事業活動収支施行見込について・ 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況(2022.7～9 月)

開催年月日	主 な 議 案
2022.12.8 (第 68 回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評議員候補者の推薦について ・ 役員(監事)候補者の推薦について ・ 2023 年度予算編成の考え方について ・ 2023 年度資産運用方針について ・ 第 49 回放送文化基金賞「表彰実施細則」について ・ 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況(2022.10~12 月)
2023.2.9 (第 69 回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 33 回評議員会の開催について ・ 審査委員会委員長の指名について ・ 経理規程の改定について ・ 助成費用準備資金規程Ⅱの改定について ・ 設立 50 周年事業積立金規程の改定について ・ 2022 年度助成の実施について ・ 2023 年度事業計画および収支予算の編成について ・ 評議員の退任について ・ 放送文化基金賞 審査委員会専門委員の委嘱について ・ 2022 年度収支決算見込みについて ・ 公益認定等委員会の立入検査について ・ 事務局職員の退職について ・ 2023 年度年間業務予定について

イ 評議員会

開催年月日	主 な 議 事
2022.6.21 (第 31 回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2021 年度事業報告および決算について ・ 評議員の選任について ・ 評議員の退任について ・ 役員(監事)の退任について ・ 2022 年度事業計画および収支予算について ・ 第 48 回「放送文化基金賞」選考結果について ・ 事業の執行状況について <p>【一部の評議員はオンライン参加】</p>
2022.12.8 (第 32 回)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評議員の選任について ・ 役員(監事)の選任について ・ 役員の退任について ・ 2022 年度収支見通しおよび 2023 年度予算編成方針について ・ 事業の執行状況について <p>【一部の評議員はオンライン参加】</p>

Ⅲ 付属明細書 (資料 1~4)